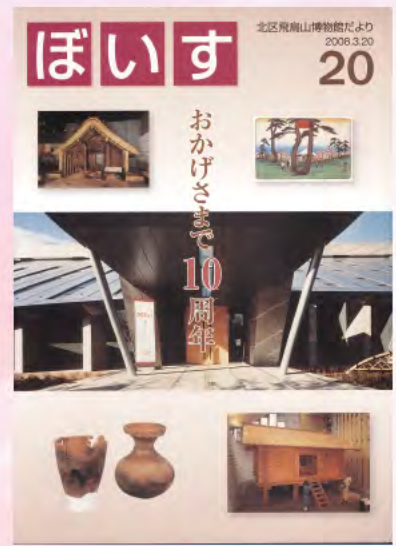


ぼいす

50



おかげさまで 50号



春期

企画展

あいらぶ

1♥スーパー …スーパーマーケットのチラシにみる昭和

観覧無料

会期：令和5年3月21日（火・祝）～5月14日（日）午前10時～午後5時

会場：特別展示室・ホワイエ

休館日：毎週月曜日

セルフサービス式のスーパーマーケットが日本に導入されたのは昭和20年代後半のこと。昭和30年代に入るとスーパーが急速に増加していきました。

北区でも昭和37年に新装開店した王子の「総合食品 堀文」が数年のうちにスーパーに転換し、その後も区内各所に登場したスーパーは地域住民の生活を支えてきました。

この企画展では、スーパーが躍進した昭和の高度経済成長期に焦点をあて、同店の当時のチラシを通して時代のニーズに対応してきたスーパーの奮闘ぶりと人々の暮らしの移り変わりを紹介します。

【関連イベント】

- (1) ミニ講座「〈昭和のスーパー風物詩〉ちんどん屋がやってきた！」

日時：3月25日（土）午後2時～3時

会場：当館 講堂

出演：ちんどん喜助

定員：40名（抽選）※抽選は終了しました。

※3月25日（土）午後12時30分頃から30分程度、当館エントランス前にて実演を行います。どなたでもご覧いただけます。 ※雨天中止

- (2) 展示解説「チラシが伝える昭和の暮らし」

日時：4月29日（土）午後2時～3時

会場：当館 講堂・特別展示室

講師：当館学芸員

定員：20名（先着順、当日午後1時10分から整理券配布）



開店時の「総合食品 堀文」
昭和37年



チラシ（初午大売出し）
昭和40年

「ただいま準備中！ スポット展示」

皆様、「5×5」はいくつでしょう？正解は勿論「25」！そして今年は開館「25」周年記念イヤーです。というわけで、春の恒例展示となっている、スポット展示「ASUKAYAMA セレクション 5」がなんとこの春、パワーアップします！名付けて「ASUKAYAMA セレクション 25」！通常3～5人の学芸員により5点の資料を選んで展示する「ASUKAYAMA セレクション 5」。しかし「ASUKAYAMA セレクション 25」では学芸員全員が資料を各自2～3点選出するという、なんと当館初の学芸員総力戦で展示を行います。

まだ展示資料募集中の執筆現在。こっそり今回は私担当資料1点をご紹介します。他にはどんな資料が登場するのでしょうか…私もドキドキ待機中です。皆様どうぞお楽しみに！（谷口）



「本草図譜 果部 六十三 岩崎灌園」

大地・水・人

偶 感

石倉 孝祐

春になると繙く書物に、近世の地誌『江戸名所花暦』がある。江戸の四季折々の景物を描いた書籍である。軽やかな和書の手触りを愉しみながら、表紙に貼られた題箋や小口の様子、背の状態を確かめる。これまで幾度ともなく江戸の地誌にはお世話になったが、岡山鳥の簡潔な筆致と、長谷川雪旦の伸び伸びとした画のすばらしさが伝わってくる一冊である。

おもに前近代の文献を扱うことをなりわいとする私にとって、収蔵庫で資料に対する時といえ、例えば企画展の準備や講座の仕込みなどがある。いずれも時間に追われ慌ただしく向き合うことが多い。もっぱら書物に書かれた内容が問題となり、データとしての歴史情報が目まぐるしく立ち現れてくる。しかしその一方で、直近に迫った作業とは異なり、保存状態を確認するために古典籍を熟覧する時こそは、純粹にマテリアルとしての資料性が眼前に現れるひとときだ。つくづく学芸員であることを感じる瞬間である。

たまたま『江戸名所花暦』巻一の「飛鳥山」の項を見る。虫食いもなく、また手擦れの跡も少なく大切に伝えられてきたことが分かる。「飛鳥山」の挿絵を眺めると、名所で憩う人々の姿、息遣いまでが挿絵いっぱい広がってくる。とても196年も昔の本とは思えないくらいだ。難読で名高い飛鳥山の碑文を見つめる男性たち、掛け茶屋の賑わい、おどけて扇子を広げて踊る人や三味線を弾く鳥追いの女性、何やら土産をせがむ子どもと当惑する母親、酒樽を担ぐ二人連れやら、大勢の武家身分の女性たち、さらに子細に見れば押し寿司売りの若者まで描かれている。実に花見の楽しさや空気感が立ち上ってくる。「花盛りのころは、木の間に仮の茶店をしつらひて群集す。遥かに東北をながむれば、足立の広地、眼下に見えて、荒川のながれ白布を引くごとく、佳景いふばかりなし。」と記されたとおりの、情景が広がる。

さて、袋綴の中に何やら挟み込まれたものがある。取り出して見ると茶色く変じた銀杏の葉である。今日、銀杏葉といえば認知機能の保持に欠かせないと喧伝され、フラボノイド配糖体やテルペンラクトンに効果があると知られている。加齢のため認知機能もそろそろ心配になってきた晩近の私にとってはありがたい。でも、古来、銀杏の葉はシキミ酸による防虫効果が謳われ、古書に挟まれた状態で見つかることが多い。銀杏を挟みながら曝書することは、昔ながらのゆかしい習慣であった。

当館では毎年、収蔵庫内の燻蒸処理が行われている。燻蒸とは、博物館の根幹に関わる大切な資料保存作業である。その一方で、先人たちの知恵、経験に裏付けられた心くばりからも、改めて学ぶものがたくさんあるようにも思う。保存の良い飛鳥山の挿絵を前に、昔の心に学びつつ、そして新しいテクネーにも臆せず未来に向かっていきたいと感じる、飛鳥山下山を迎える今年の春である。



『江戸名所花暦』所収、「飛鳥山の光景」



『江戸名所花暦』に挟まれた銀杏の葉



「縄文料理と弥生ごはん」

昨秋、縄文時代と弥生時代の“食”をテーマにした企画展を開催した。展示内容は縄文時代、弥生時代の人々がそれぞれどのようなものを食べ、どのように食材を確保し、どのように調理をしたのかを、遺跡から出土した食材そのものや骨といった残滓、食材を手に入れるための道具や調理に使った道具を通じて紹介した。おかげさまで会期中 10,173 人の来場者があったが、はたしてその反応はどうだったのだろうか。アンケートを集計した結果、「大変良かった」と「よかった」の回答が 90%を占めた。多くの方々に満足いただけたことに安どしている。また、年齢構成をしてみるといわゆる博物館ヘビーユーザーである 60～70 代に偏ることなく、50 代以下も万遍無くみられた。展示を知ったきっかけが「通りがかり」が一番多く、続く「ポスター・チラシを見て」と合わせて 70%になることから、おそらく公園を通りがかった様々な年齢層の方々が、ポスターや看板を見て「料理」や「ごはん」といったワードに興味を持たれ、来館されたことを物語っているのであろう。最後に自由意見の感想であるが、思いのほか「楽しかった」の声が多かった。「おもしろい」は「興味がわいた」ことをあらわすが、「楽しい」はそれ以上に「満ち足りて快くなる」という意味である。今回の展示を多くの方が「楽しい」と思ってくれたことは担当者として、これ以上ないほどうれしい気持ちである。これからも「楽しい展示」を心がけていきたい。(鈴木)



展示室前でおでむかえ

講座

「国史跡指定 100 周年

一里塚をめぐる」(2022 年 10 月 29 日開催)

2022 年は、大正 11 年(1922)に北区の西ヶ原一里塚(北区西ヶ原 2-13)と板橋区の志村一里塚(板橋区志村 1-12)が国史跡に指定されてから、ちょうど 100 年。そこで、北区飛鳥山博物館と板橋区教育委員会文化財係・板橋区立郷土資料館が合同で、二つの一里塚を見学する野外講座を開催しました。

一里塚は、慶長 9 年(1604)の徳川家康・秀忠による街道整備の際に、一里(約 4km)ごとに街道の脇に土を盛り木を植えさせて、里程の目印とした塚です。旅人にとっては、休憩をとったり駕籠賃の目安にもなりました。

西ヶ原一里塚は、日光御成街道の一里塚で、江戸日本橋から本郷追分一里塚に続く 2 つ目の一里塚。志村一里塚は、中山道の一里塚で、本郷追分一里塚、平尾一里塚に続く 3 番目の一里塚として築されました。ともに、築かれた当時の場所で街道両脇に 2 基そろって現存する、全国的にも貴重な史跡です。

講座当日は青空のもと、参加者は 3 つの班にわかれて、志村一里塚からスタート。板橋駅近くの平尾一里塚跡、近藤勇と新選組隊士供養塔、旧中山道の種屋、稻荷湯、千川上水分配堰碑など、旧中山道の史跡を見学しつつ、ゴールの西ヶ原一里塚をめざしました。参加者の皆さんからは、他区の学芸員の解説を聞くのはあまりない機会なので新鮮だったとの感想をいただきました。ほかの区とのコラボ講座、またぜひ企画したいと思います。お楽しみに！(田中)



講座風景

モノの記憶 — 収蔵品が語る物語 —

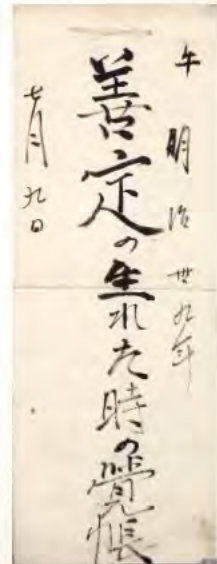
「善定の生れた時の覚帳」

明治 39 年（1906）に北区域のある家に生まれた善定の、出産祝いや出産にかかる金銭の出入りについて記した覚帳です。この内容を読んでいくと、出産にかかわる習俗や生まれた子どもを思う大人たちの思いを感じることが出来ます。

まず、親元（里親）から産見舞いとして、米・かつお節 2 本・かんぴょう・ひとえものが贈られています。この家では、産見舞いの品として主にかつお節やかんぴょうをもらっているようですが、一般的にはこの他に、米粉、鶏卵、麩、味噌、飴などが贈られることが多かったといえます。

さらに見ていくと「壱丈 うこんのきれ春吉よりもらい」と記されています。当時は生まれた子に、産着にするための八尺から一丈の反物が贈られました。そして、子どもの性別によりその色が分けられており、生まれた子が男児の場合は鬱金色、女児の場合は茜色だったそうで、善定の場合は「うこんのきれ」が贈られました。また、「二元 尾久より善定にいわってもらい」など、あちこちの親戚から出産を祝ってもらっている様子が見えます。

さて、出産にかかる費用はというと「三十銭 とりあげにおびのときにやり」「壱円 七やのときにとりあげにれいやり」「十銭 とりあげに酒代」とあります。とりあげとは、産婆のことで覚帳からは出産当日とお七夜に産婆へ礼金や酒代などが支払われていることがわかります。今も昔も出産は嬉しい一大事！みんなで支えて助け合うものだを教えてくれる覚帳です。（工藤）



写真で見るあの日、あの時

日本映画のゴールデンエイジ！

戦後の日本映画界には華々しい好景気が到来し、昭和 35 年（1960）には、国内統計史上年間最多である 546 本もの映画が世に出ました。1960 年代にテレビが爆発的に普及するまで、大衆娯楽の中心は映画にあり、この頃は、北区でもまちの至る所に映画館を見つけることができたようです。

写真は、映画界全体が盛り上がり調子だった昭和 34 年（1959）7 月の王子日劇付近をとらえたものです。ほぼ同時期の昭和 32 年（1957）に作成された王子の地図を広げてみると、王子日劇のほかにも、トーコー劇場、銀線座、自由劇場など、まちの一角に映画館が集中していたことがわかりました。それほどまでに、映画館は人々にとって身近な存在だったのです。

さて、当時の人々は王子日劇でどのような映画を見ていたのでしょうか。写真の手前側で目を引くのは、12 日公開の日活映画「世界を賭ける恋」の大々的な PR の様子です。出演者に、石原裕次郎、浅丘ルリ子らが名を連ね、当時としては珍しい欧州ロケが敢行された青春映画です。そして、「上映中」の映画をポスターで確認してみると、どうやら、石原らと同じ日活所属の看板俳優・小林旭主演のアクション映画「爆薬に火をつける！」（7 月 5 日公開）のようです。このほかにも、写真の右奥には、14 日公開の東宝系映画「森の石松」シリーズから、フランキー堺扮する森の石松の特大パネルも見えます。

当時黄金期だった日本映画界。そこから誕生したニュースターたちの活躍は、まるで戦後日本のまぶしさと重なるようではないでしょうか。（佐々木）



手川文夫氏撮影

いにしえからの贈り物

「古代のムラから見つかった和同開珎」

2009～2011年まで北区田端2・3・5丁目で行った田端西台通遺跡の調査において、竪穴建物跡から1枚の古銭が出土しました。その銭貨はなんと、「和同開珎」でした。23区内では1951年に浅草寺(台東区)から発見されたものに続いて2例目です。

和同開珎は皇朝十二銭の最初の銭貨として知られ、和銅元年(708)に発行が開始されました。皇朝十二銭とは、律令制下の日本で鑄造された12種の銭貨のことです。一昔前まで、和同開珎は日本最古の鑄造貨幣と考えられていましたが、飛鳥池工房遺跡(奈良県明日香村)における富本銭の発見により、現在では富本銭が日本最古の鑄造貨幣となっています。しかし、富本銭が主に畿内を中心とした限られた地域で出土しているのに対し、和同開珎は出土枚数が少ないながらも全国各地の遺跡から見つかっており、広範囲に流通していたことが判明しています。

田端西台通遺跡から見つかった和同開珎は、8世紀前葉と推定される竪穴建物跡から出土しています。古代において銭貨は経済的な用途以外にも、厭勝銭えんしょうせん(呪術的に用いられた銭)としても使用されました。田端西台通遺跡で出土した銭貨はどんな人物が何のために使用したかは明らかとなっていませんが、少なくとも和同開珎が発行され始めた8世紀前葉において、東国に位置する豊島郡にも和同開珎が入り込んでいたことが読み取れます。(高坂)

※和同開珎は当館5月開催のスポット展示に出展する予定です。



Voice 開館 25 周年を迎えて

利用者層の偏り、それは多くの博物館が抱える問題の1つだろう。当館も御多分に漏れず、若い世代の利用は低調である。子ども・子育て世代の利用が多い公園内に立地するが、公園から博物館、そして館内の展示室へと誘導するには“プラスα”が必要というわけだ。

当館では夏季・冬季の2時期、「夏休みわくわくミュージアム」、「来て、見て、知って!昔のくらし」として、集中的に子ども向け事業を行っている。前者は夏季休業期間に合わせたもので、自由研究のヒントとなるような展示、藍染や土器作りといった工作教室などを行なっている。また後者は小学3年生の学習単元に合わせたもので、1月～2月に大正～昭和時代の生活道具や地図・写真の展示を行うとともに、北区内の学校利用に際しては、昔ながらの道具を使った体験学習(「かまど体験」「せんたく体験」「ふろしき体験」のいずれか1つ)を実施している。

実はこのところ、来館のきっかけに、幼い頃の当館利用経験を挙げる声が聞かれるようになってきた。北区飛鳥山博物館はおかげさまで、3月27日に開館25周年を迎える。開館以来行なってきたさまざまな試みが、少しずつ実を結び始めているのであればこの上なく嬉しく思う。近年では、未就学児を対象とした工作教室も、その開催数を増やしているところだ。「あらゆる世代が楽しめる博物館」という、新しい博物館の実現を目指して、これからも一歩ずつ、その歩みを進めていきたい(安武)。



北区の文化財紹介 歴史をつなぐ人との

「高木助一郎日記」

【北区指定有形文化財（古文書）】



北区指定有形文化財に『高木助一郎日記』という全49冊からなる日記があります。十条に住まわれていた高木助一郎さんが明治41年から昭和22年まで、ほぼ毎日記していた日記です。

「歴史上の出来事」というと、私たちは政治や経済の大きな出来事や天災、事件などをイメージします。そして、ややもすると、それぞれの家庭や、家族一人一人の日々の暮らしが続いていくことが歴史を形作っていることを忘れてしまいます。『高木助一郎日記』には、日記の筆者が生きてきた日々の出来事、感じたことが綴られています。王子町役場に勤めていたこともあり、町の出来事も克明に記されていて、「地域に住む人の視線で見た地域の歴史」を知ることのできる貴重な資料です。明治時代に書かれた日記は『高木助一郎日記調査報告書』1・2として内容の翻刻・調査報告がすでに刊行されています。日記には、荒川の洪水時や大雪の日に地域の人々はどのように対応したのか、毎年の祭りがどれだけ賑やかだったのか、田んぼや畑の世話をどのようにしていたのかなどが日々綴られています。その出来事が起きた時に筆者の感想や決意とともに記されている日記を読んでいると、その時代の息遣いを感じることができます。そして、この熱量こそが『高木助一郎日記』が持つ大きな魅力なのです。

文化財が歴史と人をつなぐものとするならば、この高木助一郎日記は、まさに、文字で綴られたタイムカプセルなのかもしれません。（山口）

※令和5年3月に『高木助一郎日記調査報告書』3が刊行されます。



博物館インフォメーション

◆おかげさまで25周年！

北区飛鳥山博物館は2023年3月27日に開館25年を迎えます。25年前というと1998年。まだ20世紀だったのですね。開館以来四半世紀を歩んできた当館ですが、これから40周年、50周年にむけてがんばっていきます。応援よろしくお願いします。

◆博物館にカプセルトイ登場！！

開館25周年を記念して、博物館にカプセルトイが登場します。カプセルの中身は新たなミュージアムグッズ、“常設展示 × コン吉アクキー”。当館のイメージキャラクター、コン吉がデザインされています。種類は5つ。乞うご期待！

◆北区飛鳥山博物館公式SNSのご案内

当館公式SNS(Twitter、Instagram、Facebook)では、当館の最新情報や学芸員のつぶやき、飛鳥山公園の様子、文化財・資料情報など、みなさまが当館に親しみを持ち楽しんでいただける情報をいち早くお届けしています。ぜひフォローをお願いします！



Twitter



Instagram



Facebook



いろは

博物館

学芸員リレーエッセイ

歌留多

上中里2丁目に所在する中里貝塚は、国の史跡に指定される巨大な縄文時代の貝塚です。マガキとハマグリからなる貝殻の堆積の厚さは、最大で4.5mにも達します。

中里貝塚が、考古学的な視点で「貝塚」として認識されるようになったのは、明治16年(1883)に白井光太郎がここを訪れたことに始まります。しかし、それ以前の江戸時代にも、ここに貝殻の堆積があることは知られていました。『江戸志』では、「誠に雪の降りたるが如し」とその様子が表現され、村絵図にも「蛎から山」「蛎売山」などと記されたところが見られます※。

残念ながら、雪が降り積もったかのように地表面に白く貝殻が広がる光景は、市街地化された現在では目にすることができなくなってしまいました。今も地中に貝塚は眠っています。その存在をいかに伝えるか、国史跡中里貝塚の整備をすすめる私たちの、最大の課題となっています。(牛山)

※安武由利子 著『東京に眠る巨大貝塚の謎 中里貝塚』シリーズ「遺跡を学ぶ」160(新泉社2023年刊行)に詳述されています。



令和5年度 上半期の催し物予定

春 4月～6月

- 展示 ●
 - ◆ 春期企画展
「I♥スーパー …スーパーマーケットのチラシにみる昭和」
…………… (3/21～5/14)
 - ◆ スポット展示
「ASUKAYAMAセレクション 25」 …… (5/27～6/25)
 - ◆ パネル展
「おかげさまで25周年 博物館の歩んできた道、歩む道」
…………… (5/27～12/27)
 - ◆ 秋期企画展
「縄文人の資源利用」 …………… (10/21～12/10)

- 講座 ●
 - ◆ 北区文化財めぐり 西ヶ原編 …………… (4/21)
 - ◆ 北区ジュニア考古学クラブ2023 春 …… (4/23・5/21)
 - ◆ 春期企画展展示解説会 …………… (4/29)
 - ◆ 大人の浮世絵鑑賞講座 …………… (4/30)
 - ◆ 北区遺跡学講座2023春 …………… (5/13)
 - ◆ 北区の旧村地域を歩く …………… (5/14)
 - ◆ 北区再発見リレー講座①～② …………… (5/20・6/17)
 - ◆ 北区文化財めぐり 王子編 …………… (5/23)
 - ◆ お富士さんと富士塚めぐり …………… (6/24)
 - ◆ 赤羽漫歩を読む …………… (6/25)

夏 7月～9月

- 展示 ●
 - ◆ 夏休みわくわくミュージアム★2023
…………… (7/21～8/27)
 - ◆ 特別展覧会
「第22回奥山峠石と北区の工芸作家展」 …… (9/9～10/9)
- 講座 ●
 - ◆ 北区再発見リレー講座③～⑤ …… (7/15・8/26・9/23)
 - ◆ 第39回新聞から読む考古学-2023年上半期を振り返る-
…………… (7/16)
 - ◆ 開催直前! 王子田楽 …………… (7/29)
 - ◆ 北区ジュニア考古学クラブ2023 夏 …… (7/30・8/27)
 - ◆ 関東大震災記録を読む …………… (9/2)
 - ◆ 考古学講座初級編 考古学を始めよう …… (9/10)

利用のご案内



- 【開館時間】 午前10時～午後5時
※観覧券の発行は午後4時30分まで
- 【休館日】 毎週月曜日(月曜日が国民の祝日・休日にあたる場合は開館し、直後の平日に振替休館) 年末年始(12月28日～1月4日)
※このほかに臨時休館があります。

【常設展示観覧料】★年齢が確認できる証明書をご提示ください。

	個人	団体	三館共通券
一般	300円	240円	800円
高齢者(65歳以上)	150円★		
小・中・高	100円	80円	320円

・小学生未満は無料
・団体扱いは20名以上
・障害者手帳をご提示いただいた場合は、当館の一般券が半額となります。(障害のある方一人につき、介助者一人まで観覧料が免除になります。)

・三館共通券は当館のほか、渋沢史料館・紙の博物館をご覧いただけます。



交通のご案内

- ・JR京浜東北線 王子駅南口より徒歩5分
- ・地下鉄南北線 西ヶ原駅より徒歩7分
- ・東京さくらトラム(都電荒川線) 飛鳥山停留場より徒歩4分
- ・都バス(草64、王40系統) 飛鳥山停留所より徒歩5分
- ・Kバス(北区コミュニティバス) 飛鳥山公園停留所より徒歩3分
- ※飛鳥山公園に隣接している有料駐車場がございます。

編集後記

当館は開館から25年。ぼいすは年2回の発行なので50号に達しました。今回記念の50号の編集をたまたま私が担当したのですが、過去を振り返ってみると実は10周年の20号、20周年の40号も私が編集担当だったのです。何か縁を感じてしまいます。ということは30周年記念も私が? (鈴木)

北区飛鳥山博物館だより ぼいす50

【発行日】 令和5年3月10日
 【編集・発行】 北区飛鳥山博物館
 〒114-0002
 東京都北区王子1-1-3
 TEL. 03-3916-1133
 【印刷】 文明堂印刷株式会社